

BORDERLESS IR CO., LTD

ANNOUNCES NEWSLETTER

株式会社識学(7049 東証マザーズ) 2022年2月期第2四半期決算概要

2021年10月6日東京

2022年2月期第2四半期は大幅増収増益。主力のコンサルティング事業が好調でマネジメントコンサルティングサービス、プラットフォームサービス共に大きく伸長。

決算概要

○2022年2月期第2四半期連結累計期間の経済環境は、新型コロナウイルス感染症の影響で引き続き厳しい状況が続いていたが、同社を取り巻く環境として、「従業員を結果で管理する」、「ルールに基づく組織運営により働く場所に関係なく結果を出す」という組織の生産性向上を図ることに対する市場ニーズは強く、同社サービスの需要は引き続き堅調に続いている。

○同社グループの企業理念は「識学を広める事で人々の持つ可能性を最大化する」ことで、「識学」が顧客の組織に浸透する状態を実現するべくサービス提供を行っている。また、スポーツエンタテインメント事業においては、Bリーグの2021-22シーズン開幕に向けてスポンサー獲得のための積極的な営業活動を行ってきた。VCファンド事業では、識学1号投資事業有限責任組合の出資先、株式会社アイドマ・ホールディングスが東証マザーズに上場、組成から1年半でIPOを達成した銘柄が2件となった。識学の組織コンサルティング手法は上場に向けた組織運営と親和性があることが確認できる。

○第2四半期連結累計期間の売上高は1,801,483千円(前年同期比86.4%増)、EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却費+敷金償却)は236,142千円(前年同期比7,588.7%増)、営業利益は201,292千円(前年同四半期は営業損失24,381千円)、経常利益は197,270千円(前年同四半期は経常損失25,918千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は120,333千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失105,132千円)となった。

○同社のセグメントは、組織コンサルティング事業、スポーツエンタテインメント事業、受託開発事業、VCファンド事業、ハンズオン支援ファンド事業である。

○組織コンサルティング事業にはマネジメントコンサルティングサービスとプラットフォームサービスがある。

マネジメントコンサルティングサービスは、第2四半期連結累計期間は、感染症拡大の影響を受けたが、講師の積極的な採用と顧客基盤拡大のための積極的なマーケティング活動による投資を継続し、講師数は前年連結会計年度末から11名増加し65名となった。同サービスの第2四半期連結会計期間末時点の累計契約社数は2,571社(前連結会計年度末は2,187社)となった。第2四半期連

結会計期間の売上高は、1,070,358千円(前年同期比36.5%増)となった。

プラットフォームサービスは、第2四半期連結累計期間においては、2020年9月よりサービス提供を開始した「識学」に基づく組織運営が定着するまで継続的に運営支援を行う「識学 基本サービス」の拡販に注力。同サービスの診断により、組織課題が明確になり、課題解決に向けたサポートを実施することができ、「識学 基本サービス」に対する顧客満足度の向上に取り組んできた。識学基本サービスの第2四半期連結会計期間末時点の契約社数は379社(前連結会計年度末は167社)、識学クラウド契約者数は157社(前連結会計年度末は229社)、識学会員の会員数は340社(前連結会計年度末は479社)となった。同第2四半期連結累計期間のプラットフォームサービスの売上高は487,545千円(前年同期比210.5%増)となった。

結果、組織コンサルティング事業の第2四半期連結会計期間の売上高は、1,558,103千円(前年同期比65.5%増)、営業利益は294,660千円(前年同期比3,997.2%増)となった。

○スポーツエンタテインメント事業は、第2四半期連結累計期間に、B1リーグへの昇格を目指してチームの強化を行いながら、「地域密着型クラブ」として地域スポーツ振興を普及することを目的とした取組みを行ってきた。第2四半期において、2021-22シーズンのスポンサー獲得に向けた営業活動及び営業人員の採用、新たな収益基盤である企業版ふるさと納税の拡充に向けた地方公共団体との連携強化に努め、スポンサーの受注は9,397万円(前年同期比+75.8%)と順調に推移したが、チーム強化に向けたチーム運営費の継続的な投資を行ったことによりコストが先行することになった。

結果、スポーツエンタテインメント事業の第2四半期連結会計期間の売上高は、91,784千円、営業損失は、75,255千円となった。

○受託開発事業は、第2四半期連結会計期間において、保有する多種多様な開発案件実績に基づくノウハウやエンジニアソースを生かし、同社グループのプラットフォームサービスの開発業務や資格取得講座のe-ラーニングシステムの受託開発等を行ってきた。2021年3月、オンラインで入社体験でき、登録企業の仕事内容の理解促進、当該企業とのマッチング度を計測する採用マッチングサービス「入社体感DX」をリリースした。

結果、受託開発事業の第2四半期連結会計期間の売上高は151,595千円、営業損失は13,752千円となった。

○VCファンド事業では、「組織力」、「成長する組織への転換」に着目した投資を行い、投資先企業への「識学」導入による組織改善によって成長支援するベンチャーキャピタルファンドを運営、2021年6月には識学2号投資事業有限責任組合を組成、子会社化、連結範囲に含めた。本年6月から7月にかけて識学1号投資事業有限責任組合で保有している株式を一部売却、167百万円の投資有価証券売却益を計上、2021年6月29日以前に実行した投資による売却益のため特別利益として計上している。

結果、VCファンド事業の第2四半期連結会計期間の営業損失は、13,113千円となった。

○ハンズオン支援ファンド事業の第2四半期連結会計期間は、投資先のEXIT(IPO,M&Aなど)によるキャピタルゲインを収益源とする「組織改善支援×金融・ファイナンス支援」というハンズオン支援ファンドを運営。2021年6月に「成長が見込まれる企業に対して投資を行い、ハンズオンにより投資先企業の業績改善、成長を支援し、その後の売却を通じ投資資本を増加させること」を、目的とした新生識学成長支援1号投資事業有限責任組合を組成、持分法適用関連会社とした。

結果、ハンズオン支援ファンド事業の第2四半期連結会計期間の営業損失は990千円となった。

○業績予想については変更はなく、2022年2月期の売上高は3,798百万円(前期比51.6%)、EBITDAは470百万円(前期比136.2%)、営業利益は400百万円(前期比191.2%)、経常利益は353百万円(前期比77.4%)としている。

株式会社識学(4249 東証マザーズ)<https://corp.shikigaku.jp/>

2022年2月期第2四半期決算短信については、こちらをご参照ください。

→ <https://global-assets.irdirect.jp/pdf/tdnet/batch/140120210929404192.pdf>

リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

リリースに関する照会先

Borderless IR 株式会社 <http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

TEL 03-4588-6706 担当:福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向けIR情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外IR支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。